

商工労働企業委員会 県内所管事務調査の概要

【平成30年5月8日（火）】

◆調査箇所：三和酒類株式会社（宇佐市大字安心院）

<概要>

三和酒類株式会社の安心院葡萄酒工房では、おいしいワインの持続的な生産に向け、ぶどうの生産にセンサーやドローンなどのIoT技術を導入するIoTプロジェクトを推進している。本プロジェクトには東京大学や長野県塩尻市などとともに参画しており、ぶどう農園に各種センサーを設置し、データを生かしたワインや焼酎の生産に取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・経営戦略について
- ・機械と人の役割分担について

◆調査箇所：北部振興局

<概要>

北部振興局から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興など所管事業の概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・従事者数の推移について
- ・若年者の県外流出阻止について
- ・中津市の山腹崩壊に関する風評被害対策について

◆調査箇所：中津総合ケアセンターいずみの園（中津市永添）

<概要>

昭和53年に特別養護老人ホームを創立。現在は、高齢者、障がい者、児童、生活困窮者を対象とした多様な事業を提供している。

また、モバイルクリエイティブ株式会社が開発している医療看護支援システムの実証実験に協力している。実証実験では、IoT、AIを活用し、日々のバイタル測定の見守りや見守りロボットによる入居者の見守り（異常傾向を検知した場合に職員に連絡するなど）が行われている。



<主な質疑等>

- ・システム導入のコストについて
- ・システムを利用することによる職員のメリットについて
- ・実証実験の苦勞について

◆調査箇所：富双シート株式会社（中津市大新田）

<概要>

平成16年に中津市に進出。従業員数は300名を超える。車（6車種）のシートやドアトリム等の内装部品を製造している。

シート等は中津市内のダイハツ九州株式会社に納入しており、同社の生産に合わせて順次出荷を行っている。



<主な質疑等>

- ・インターンシップ、採用状況について
- ・在庫状況について
- ・県内就職の促進について

◆調査箇所：大分県立工科短期大学校

<概要>

工科短期大学校から、職業訓練の状況、溶接実習室などの概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・外国人研修生の受入れについて

【平成30年5月9日（水）】

◆調査箇所：小鹿田焼協同組合（日田市源栄町）

<概要>

平成29年7月の九州北部豪雨で、小鹿田焼の里では唐臼14基が被災するなど甚大な被害を受けた。

小鹿田焼の釜元10軒で構成する小鹿田焼協同組合では、被災地域小規模事業者持続化支援事業費補助金や地域活力づくり総合補助金を活用し、唐臼小屋や陶土採取場などの復旧に取り組んでいる。

復旧・復興のための寄附もかなりあり、活用しているとのことである。



<主な質疑等>

- ・今後の豪雨災害への対応について
- ・ゴールデンウィークの来訪者の状況について

◆調査箇所：西部振興局、日田高等技術専門校

<概要>

西部振興局及び日田高等技術専門校から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興、観光の振興、地域振興、職業訓練の状況など所管事業の概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・労働生産性の向上について
- ・被災地域小規模事業者持続化支援事業費補助金の活用状況について
- ・日田地域の特色をいかした職業訓練について

◆調査箇所：おおやま夢工房（日田市大山町）

<概要>

従前は日田市の指定管理者として施設運営を行っていたが、平成28年にJR九州グループとなり、日田市から建物の譲渡を受けたことから、施設のリニューアルに着手した。

平成29年10月以降、梅酒工場、宿泊施設、道の駅の3つの施設を順次リニューアルオープンし、日田市大山町の梅など、地元をよく知ってもらうことを重視した経営を行っている。



<主な質疑等>

- ・宿泊数について
- ・インバウンドの状況について

【平成30年5月14日（月）】

◆調査箇所：東部振興局

<概要>

東部振興局から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興など概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・大分空港をいかした産業の振興について
- ・商工会の伴走型支援の課題について
- ・RESASを用いた地域課題分析について

◆調査箇所：株式会社ブレーンネット、株式会社Ruby開発（姫島村）

<概要>

離島のため企業誘致では不利となっていた姫島村では、場所にとらわれない働き方が可能なIT企業2社のサテライトオフィスを誘致し、ITアイランドとして姫島村のブランディングに取り組んでいる。

東京から進出した株式会社ブレーンネットと株式会社Ruby開発は、本社と姫島村をインターネット回線をつなぎ、本社で受託した案件を姫島村で行っている。



<主な質疑等>

- ・ 姫島で行う業務内容について
- ・ ITエンジニアに興味を持ってもらうための学校教育との連携について
- ・ 姫島進出のメリット、課題について

【平成30年5月24日（木）】

◆調査箇所：西南水産株式会社上浦支店（佐伯市上浦）

<概要>

平成3年に設立し、本社は鹿児島県大島郡。完全養殖本まぐろの生産に成功している。平成20年に佐伯市に進出。加工施設を有しており、まぐろの養殖、水揚げ後、鮮度の高いうちに産地で加工している。

また、佐伯市の鮭とまぐろを組み合わせたフェアを開催するなど、佐伯市での生まぐろ普及にも取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・ 養殖のメリットについて
- ・ 天然まぐろの漁獲量規制への対応について

◆調査箇所：南部振興局、佐伯高等技術専門校

<概要>

南部振興局及び佐伯高等技術専門校から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興、職業訓練の状況など概要説明を受けた後、質疑、意見交換を行った。

また、佐伯商工会議所及び佐伯市番匠商工会から地域の課題や商工会議所の活動状況について説明を受け、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

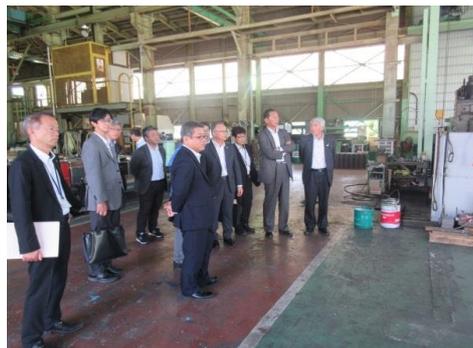
- ・ 商業・工業の従業者数の増加について
- ・ 担い手不足に対応した高等技術専門校のカリキュラムについて

◆調査箇所：ニシジマ精機株式会社（佐伯市戸穴）

<概要>

昭和23年創業。製缶、溶接、機械加工、組立を一式で行うことができる。3次元加工などの技術革新にも積極的に取り組み、県外からも受注している。

宇宙産業への参入を進めており、JISQ9100を取得している。超小型衛星「てんこう」の製作にも携わっており、女性や若者をリーダーにして職人とともにチームを作り、進めていったとのことである。



<主な質疑等>

- ・インターンシップについて
- ・女性が働きやすい環境づくりについて
- ・JISQ9100の取得費用について

◆調査箇所：大手前情報発信館（佐伯市大手前）

<概要>

佐伯市大手前地区では、平成27年に策定された大手前開発基本計画に基づき、市民も参画しながら、にぎわいの創出と市民活動の活性化を目標とした開発事業が行われている。

今後、多目的ホールなどを備えた「大手前まちづくり交流館（仮称）」、「大手前広場（仮称）」等が整備される予定である。（平成32年完成予定）



<主な質疑等>

- ・周遊ルートの開発について
- ・まちづくりと地域の人間関係について

【平成30年5月25日（金）】

◆調査箇所：株式会社フレッシュグルメ大分工場（豊後大野市犬飼町田原）

<概要>

平成29年11月に豊後大野市に進出。本社は福岡市。地元の農産物を冷凍加工して全国に出荷し、学校給食等に使用されている。

農産物は自社生産のほか、豊後大野市等の農家への委託生産を行っており、委託先に対するマネジメントも行っている。農家が継続的に経営していけるようになることで、後継者不足や耕作放棄地の問題解消につながっていくことが期待される。



<主な質疑等>

- ・後継者のいない農家への対応について
- ・農家との圃場契約について

◆調査箇所：竹田まちホテル、たけた駅前ホステルc u e（竹田市竹田町）

<概要>

竹田まちホテルは、移住希望者が家族で移住体験ができるよう、空き家を改修して竹田市が整備したもので、昨年8月に開業した。フロントを駅に作り、今後客室（物件）を市内に点在させていく予定である。

たけた駅前ホステルc u eは、空き家をリノベーションしたゲストハウスで、昨年4月に開業した。共用キッチン等、宿泊者が交流できる設備を備えている。

いずれも竹田市にはこれまでなかったタイプの宿泊施設であり、空き家を活用している点が特色である。

<主な質疑等>

- ・ 宿泊、移住等の実績について
- ・ 今後のまちホテル構想の進め方について



◆調査箇所：豊肥振興局

<概要>

豊肥振興局から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興など概要説明を受け、質疑、意見交換を行った。

また、竹田商工会議所及び豊後大野市商工会から地域の課題や商工会議所の活動状況について説明を受け、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・ 地元企業への助成について
- ・ 小規模事業者持続化補助金について
- ・ 農産品のパレット輸送について

◆調査箇所：企業局判田浄水場（大分市下判田）

<概要>

大野川から取水した水を、判田・大津留の各浄水場で浄化し、大分市内の各企業に工業用水として供給している。あわせて、大分市水道事業と連携した業務を行うことにより、大分市の横尾浄水場に上水道の原水も送水している。



<主な質疑等>

- ・ 汚泥の処理について
- ・ 受益者負担について

【平成30年5月31日（木）】

◆調査箇所：大木化粧品株式会社（大分市大道町）

＜概要＞

昭和23に設立。化粧品等の卸販売を行うほか、平成16年にはインターネット通販サイトの「コスメボックス」を開設し、通販事業でも高い実績をあげている。

また、自社のノウハウをいかして、県が開設している「おんせん県おおいたオンラインショップ」の事業運営も受託しており、出品者と協議を重ねながら、県産品の魅力がサイトの閲覧者に伝わるよう取り組んでいる。



＜主な質疑等＞

- ・今後の経営戦略について
- ・設備投資について
- ・情報発信の工夫について

◆調査箇所：産業科学技術センター

＜概要＞

県内企業のものづくり活動に対する総合支援・研究機関。企業が抱える技術課題に対応するため、技術相談の対応を業務の基本に据え、依頼試験や機器貸付、企業ニーズに基づく共同研究等により迅速な課題解決に取り組んでいる。

また、4月にオープンした先端技術イノベーションラボ（Ds-Labo）は、西日本唯一のドローン開発拠点として、ドローン飛行試験用フィールドや世界最高水準の磁気測定ができる磁気シールドルームを備えている。



＜主な質疑等＞

- ・技術相談の状況について
- ・研究員の人材育成について

◆調査箇所：後藤製菓（臼杵市深田）

＜概要＞

大正8年に創業し、来年で創業100年を迎える。当社が製造する「臼杵煎餅」は、県内7社で製造されているが、他社との差別化を図るべく、原材料の再厳選化や規格、パッケージの変更等のリブランディングを行っている。

また、次の100年を見据え、若い世代に臼杵煎餅を伝えていくため、新ブランドを設立し、従来品のアレンジやショウガを活用した新商品の発売に取り組んでいる。



＜主な質疑等＞

- ・製造量の推移、今後の目標について
- ・若い世代の意見の取入れ方について

◆調査箇所：株式会社はなはな（大分市玉沢）

<概要>

平成23年に設立。健康寿命を延ばすことを重視してリハビリに力を入れた老人ホームの運営などを行っている。

女性が活躍できる会社になりたいという経営者の思いから、社内に保育所を整備したり、社員の研修に力を入れるなど、社員が働きやすい環境づくりを進めており、おおいたワーク・ライフ・バランス優良企業表彰を受けている。



<主な質疑等>

- ・勤務体制、賃金水準、人件費について
- ・今後の経営戦略について

◆調査箇所：有限会社ピーエムラボ（大分市萩原）

<概要>

昭和50年に設立され、入れ歯や差し歯を製作する歯科技工所である。関東など全国から製作を受注して発送する流通システムを構築し、売上げを伸ばしており、地域牽引企業に認定された。

また、歯科技工士の育成支援にも力を入れており、賛同した企業とともに「大分県歯科技工士育成会」を運営し、歯科技工士養成校での修学支援のための奨学金貸与等の取組を行っている。



<主な質疑等>

- ・関東への運送方法について
- ・歯科技工士の勤務環境について

【平成30年6月1日（金）】

◆調査箇所：中部振興局

<概要>

中部振興局から、管内の状況、商工労働企業委員会に係る企業立地、商工業の振興など所管事業の概要説明を受け、質疑、意見交換を行った。

また、大分商工会議所及び津久見商工会議所から地域の課題や商工会議所の活動状況について説明を受け、質疑、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・産業連関表等のデータの活用について
- ・ものづくり補助金について
- ・地域牽引企業について

◆調査箇所：大分高等技術専門校

<概要>

新規学卒者や離転職者・一般求職者に対し、職業に関する知識や技能を習得させる県立職業能力開発校。2年制訓練の『メカトロニクス科』、1年制訓練の『電気設備科』『自動車整備科』『空調配管システム科』『木造建築科』の5科を設置し、ものづくり産業の発展に寄与する人材育成を行っている。

また、様々な職業訓練のニーズを踏まえ、介護福祉士養成科など、各種委託訓練を行っている。



<主な質疑等>

- ・新規学卒者の募集について
- ・委託訓練について

◆調査箇所：大分県職業能力開発協会（大分市下宗方）

<概要>

職業能力開発促進法に基づき設立された法人であり、技能検定の実施や、各種研修、児童・生徒向けの事業所見学など職業能力の開発・向上に関する業務を行っている。

今回は、大分県ものづくりカレッジなどの関係団体等も参加し、意見交換を行った。



<主な質疑等>

- ・技能士の確保について
- ・若年者の県内就職について

◆調査箇所：株式会社ヤクテツ（津久見市大字堅浦）

<概要>

昭和43年に設立。大型クレーン等の産業機械設備や人員輸送コンベアー等の輸送機械設備の製作などを行っている。

自社の技術をいかしたものづくりを進めて全国から受注している。また、太陽光発電エコクレーンで実用新案を取得するなど、知的財産制度の活用にも取り組んでいる。



<主な質疑等>

- ・受注の状況について
- ・社員の採用方針、定着率等について

◆調査箇所：大分県立竹工芸訓練センター

<概要>

新規学卒者や離転職者・一般求職者に対し、伝統的工芸品としての竹工芸の後継者育成や障がい者に対する職業訓練等に取り組む職業能力開発校。竹産業の振興に関する支援も行っている。

竹工芸科は平成25年4月に2年制に移行。竹工芸品の製作に関する、竹材の材料加工・各種編組技術・染色・塗装技術を学び、現代社会のニーズに対応した竹製品を製作する技術と販売まで行える知識が習得できる。



<主な質疑等>

- ・竹工芸品の情報発信について
- ・入校状況について
- ・学外からの見学者の状況について